

## 令和2年度 第2回北九州市指定管理者の評価に関する検討会議

日時：令和2年7月8日（水）

10:00～12:00

場所：本庁舎15階 15C会議室

（各構成員はオンライン出席）

- 1 開会
- 2 評価の検証の進め方について
- 3 所管局に対するヒアリング

### **(1) 門司障害者地域活動センター、小倉南障害者地域活動センター、八幡西障害者地域活動センター[保健福祉局障害者支援課]**

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

（構成員）

生活介護や自立支援の部分で、評価の基準を作っているか。

（所管課）

何%を超えるなどの定量的な基準は設けていないが、支援が適切に行われているかなど定性的な部分で評価している。

（構成員）

施設の特性上、定量化で測れない部分が大きいため、定性的な評価は非常に重要である。明確な評価につなげるため、指定管理者と所管課で協議するなどして、定性的な部分の基準や改善ポイントなどを設置することも大事だと思う。

（構成員）

施設ごとに月の平均工賃で差があるのは、市が業務を委託するなど支援した結果なのか。

（所管課）

市の業務を優先的に委託しているということではない。県が主管となり行っているB型事業所の工賃向上を行う取組みがあり、発注元の拡大や販路拡大などを各施設が自主的に頑張っているという状況である。

工賃の差については、B型の福祉的就労に従事できる人もいれば、生活介護を受ける人もいるなど、各施設で入所者の労働力や能力に差があることが要因と考える。目標値

に対して実績が思わしくないことは全てが指定管理者としての努力不足という訳ではない。所管課として、指定管理者が実態に即した中で、少しでも実績を上げる取り組みなどをしっかりと行っているという視点に力を置いて評価している。

（構成員）

工賃については、説明で理解ができた。門司障害者地域活動センターと八幡西障害者地域活動センターの工賃が目標値未達という状態で、門司障害者地域活動センターが3で、八幡西障害者地域活動センターが4という評価レベルの違いは農福連携事業の取り組みを評価したということか。

（所管課）

その通りである。

（構成員）

「利用者の満足度」について、アンケート結果や美容室や歯科治療室の取り組みなど、記述内容では高く評価できると考えるが、評価レベル3とした理由は何か。

（所管課）

質の高い施設運営を要求しているため、指定管理者として求められる水準を十分理解して適正に運営されているというところで評価レベル3としたが、構成員の意見を受け、再度検討したい。

（構成員）

施設の管理運営で、3施設とも評価レベル4だが、記述内容を見ると、特に小倉南障害者地域活動センターでは、人員体制の情報共有化や人材を育成できる体制の形成、また、外部の研修を内部の研修に反映させるなど、他の2施設に比べ、踏み込んだ独自の取り組みを行っている。全施設同じ評価でよいのか。

（所管課）

各施設の取り組み内容はかなり多岐にわたる。各施設を比較したときに、小倉南障害者地域活動センターの取り組みは評価できる部分だと認識しているが、門司障害者地域活動センターや八幡西障害者地域活動センターも特色を持って施設の管理運営を行っている。所管課が行う実地指導の際など現地の様子を見るに、門司障害者地域活動センターと八幡西障害者地域活動センターが小倉南障害者地域活動センターと比べ劣っているわけではないため、各施設それぞれの努力を評価した結果である。

(構成員)

八幡西障害者地域活動センターは農福連携の取り組みに重点を置いた評価により4とされているように感じるが、令和元年度の工賃の実績が下がっている。農福連携を行うことで経費がかかり、工賃が目標値未達になったという関連性があるのであれば、農福連携の取り組みに直結して評価を上げるというのが適切か疑問である。

(所管課)

工賃が下がった理由については、令和元年度から農業に力を入れるために施設内の作業をやめたこと、また、農業を始めるにあたり、土の入れ替えや、器具の調達などの部分で初期投資に経費がかかったことが結果に出ていると考える。今年度以降徐々に回復傾向にあるという指定管理者からの意見もあり、今後の動向を注意していくという状況であるが、農業を行うことで非常に心が豊かになり、土を扱うことはすごく良い影響を与える。工賃についても、所管課としては生産活動収支で必ず工賃を出すというルールを設けているため、当初は初期投資で費用がかかり、その分、工賃に反映されてしまうという事情はあるが、指定管理者からの意見にもあるように、今年度から工賃も回復してくるという見込みも含め評価した。

(構成員)

戦略的に今まで色々な下請け作業などをやっていた部分を農福連携で就労の部分と生活介護の部分を組み合わせて移行していくという端境期（はざかいぎ）という理解で良いか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

小倉南障害者地域活動センターで月平均工賃が目標を上回っているが、作業収入の年間額が下回っているというのはなぜか。

(所管課)

作業収入は一施設として請け負った業務の収益である。それに対し月平均工賃は、利用者の収入額の一月当たりの平均値である。例えば、令和元年度の実績は714万ほどの収益を上げ、それに対し、利用者一人当たりの工賃については、月額1万3,852円支払ったということである。これは作業収入としては減っているが、利用者一人当たりへの還元は十分であったということである。要因としては、延べ利用者数の減少が考えられる。

## **(2) 北方ひまわり学園、到津ひまわり学園、若松ひまわり学園、引野ひまわり学園**

### **[保健福祉局障害者支援課]**

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

北方ひまわり学園と他のひまわり学園3施設で、施設の規模や事業内容に大きな差はないが指定管理料の支出の有無に違いがあるのはなぜか。

(所管課)

北方ひまわり学園と他のひまわり学園3施設の違いについては、短時間通園という事業の有無である。短時間通園は、定員オーバーで施設利用が出来ない人のために短時間で療育が行えるよう実施している事業であり、短時間通園を実施するにあたり、相応の人員配置が必要になり、人件費などの経費が掛かるため、到津ひまわり学園、若松ひまわり学園、引野ひまわり学園は、その部分について指定管理料を支出している。

(構成員)

指定管理者募集の際に、北方ひまわり学園は短時間通園事業の項目を入れず、他のひまわり学園3施設については項目を入れていたという理解で良いか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

4施設とも評価レベルが同じである。指定管理者が同法人であることも要因の一つと推測できるが、地域性などにより施設間の差は生じないのか。

もう一つ、定員を超えて受け入れていることを評価しているが、そもそもニーズが高いのであれば、定員を増員することも必要ではないか。

(所管課)

地域性による差について検証していないが、4施設とも指定管理者のサービスの質はかなり高く、高い水準で均一化していることが理由と認識している。

もう一方の定員の増員については、所管課として検討しているが、施設の構造上容易ではない。今後の課題である。

(構成員)

経費の部分で、北九州あゆみの会が管理している北方ひまわり学園では予算を超過し

ているが、北九州市福祉事業団が管理している他のひまわり学園3施設では経費の削減を実現しているなど差がある。複数施設を同事業者が管理することでシナジーが発生するのであれば、複数施設を一括して同一事業者管理してもらった方が良くはないか。

(所管課)

経費削減については、施設ごとに知恵を出しながら取り組んでいる。

どのひまわり学園も施設規模は大きくないため、一括管理を行うことスケールメリットに大きく効果があるとは考えにくく、所管課としては現在の単館での管理が適切であると判断している。

(構成員)

評価とは少し異なるが、アンケートの自由記述でも施設が古いという意見が散見される。また、障害児支援の人数が増えている中で、ひまわり学園のように質の高いサービスを提供出来る施設のニーズは高いため、一施設当たりの定員を増員出来るようハード面の整備などの公的なサポートについて希望を意見として伝える。

(所管課)

必要な対応については検討していきたい。

(構成員)

アンケート票には「あなた（ご利用者）またはご家族のご意見に最も近いものを選んでください」とあるが、この「ご利用者」というのは、利用する子供の事か。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

これに回答するのは親か。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

この表記は、子供と相談しながら親が回答することもあることを想定した表記という理解で良いか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

このアンケートはどのように回収しているか。

(所管課)

利用者の家族が施設に設置しているアンケートボックスに直接投函し、それを所管課が施設に赴き、回収し集計している。

(構成員)

アンケート結果が数値的に非常に高く、自由記述の内容も満足度が高く、素晴らしい結果である。一方でアンケートの回答人数が少ないという側面もあり、回収方法によって、書いた人が特定されてしまうと懸念がある。そうすると、無意識に良い評価をつける傾向にあるため、アンケートの取り方や回収方法について気になった。

また、評価が素晴らしいのは良いことだが、現状が良すぎると改善するところが見えてこない。本来、アンケートは評価のためではなく、改善ポイントを探してさらに良くしていくためのツールである。その部分はもう少し記述などの工夫がほしい。

(所管課)

承知した。

### **(3) 浅野工芸舎、洞海工芸舎、八幡東工芸舎[保健福祉局障害者支援課]**

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

利用率が%で表記されているが、目標値が100%を超えており評価が難しい。延べ利用者数で目標設定するなど検討してはどうか。

(所管課)

検討したい。

(構成員)

洞海工芸舎について、「施設の設置目的の達成」部分で、12月以降新設された同法人インクル若松に事業を移行したため、月平均工賃が減少したとあるが、それに伴い洞海工芸舎の工賃が下がることを所管課はどう評価するのか。

(所管課)

一部事業を移行したため、一時的に月平均工賃は減少したが、その代わりに令和2年度から施設外就労対象施設を2社から4社に増やしている。そのため、一時的な減少に留まり、なおかつ一般社会に参加し働くことが出来る施設外就労が増えたことで、利用者の満足度も上がり、所管課としては適切に評価している。

(構成員)

今の説明に関連して、施設外就労と施設内就労では施設外就労を増やしたほうが、所管課としては評価できるという理解で良いか。

(所管課)

各施設の状況も異なるため、どちらが良いというのは無く、施設外、施設内どちらも大切である。

(構成員)

八幡東工芸舎の総合評価で、利用者の満足度も非常に高いと記述しているが、利用者の満足度の項目は評価レベル3であることに違和感がある。

(所管課)

質の高い施設運営を要求しているため、指定管理者として求められる水準を十分理解して適正に運営されているというところで評価レベル3としたが、構成員の意見を受け、再度検討したいと思う。

(構成員)

八幡東工芸舎の評価シート2ページ目に工賃表が入っていないが、他の工芸舎は記載されているため、同様に記載してはどうか。

(所管課)

修正する。

#### **(4) 本城リサイクル工房[保健福祉局障害者支援課]**

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

他の施設と同じように賃金額は記載しないのか。

(所管課)

労働時間に応じて賃金が決まるため、平均賃金を記載するよう修正する。

(構成員)

「利用者の満足度」に記載されている検定や資格の取得については、「施設の設置目的」とも考えられる。「利用者の満足度」と考えるなら記述内容を工夫してはどうか。

(所管課)

検定や資格の受験や合格は、利用者のモチベーションが上がるという意見を指定管理者から聞いているため、所管課としては「利用者の満足度」で評価することが適切であると考え。記述内容を工夫する。

(構成員)

「経費の低減等」でISOの14001の取得に絡めて記述しているが、環境への配慮イコール経費の低減ではないため、記述内容を工夫してはどうか。

(所管課)

検討する。

#### **(5) 浅野社会復帰センター[保健福祉局障害者支援課]**

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

「施設の設置目的の達成」の評価レベルが4である。特徴的な取り組みを記述しているが、一方で数値で見ると実績が目標未達となっているため、評価レベル4とした理由を聞きたい。

(所管課)

一般企業への移行が難しい中、一般企業への就職率、就職数などは相応の努力をしたと判断し、評価している。

(構成員)

利用者満足度について、アンケートは他の施設と同じ項目か。

(所管課)

その通りである。



(構成員)

障害者関連施設共通のアンケートも必要であるが、浅野社会復帰センターは就労支援も行っているため、その満足度を図るアンケートは必要ないのか。

就労移行支援のプログラムが役に立っているか、満足か、指導体制が十分かという項目がないと少し不足している。そのようなアンケートを実施しているか。

(所管課)

実施していない。

(構成員)

来年度以降検討してほしい。

(所管課)

こういった形でできるか研究したいと思う。

(構成員)

光熱水道費の部分で、令和元年度は予算に対して15%減を達成しているが、3と評価されている。予算対比で考えると評価レベル4でも妥当ではないか。評価レベル3とするのであれば、施設の状況、特質、予想外の利用者増なども照らし合わせ、評価内容を記述することが大事である。

(所管課)

承知した。

(構成員)

特に15%や20%になると差が大きい。評価の際には気をつけて見ていただきたい。

#### 4 意見交換 (第2回目・とりまとめ)

(構成員)

洞海工芸舎のリユース食器レンタル事業を同法人へ移行したことで、月平均工賃が減少したという理由は理解できる。しかし、法人側の方針で利用者が手にするお金が突然削減されるという事が、利用者の利益という目線で考えたときに、一概に良いといえるか疑問である。利用者目線がやはり大事ではないか。

#### 5 その他 (次回会議の説明)

#### 6 閉会